

今野 孝嶺

希望

ふるさと納税返礼品の基準見直しと支援

問 ふるさと納税返礼品の基準が見直され、製品価値の過半が市内の工程や原材料によって生じることの証明と公表が義務付けられる。原材料の市内調達率を高めるための取組を支援する考えは。

答 市では制度の見直しに関する説明会の開催や個別訪問等により周知を図りながら、原材料等の市内調達率を示す証明書の作成支援を行っている。現在のところ、見直しによる大きな影響は生じないものと見込んでいるが、今後、事業者から相談があった際には、ふるさと納税業務委託事業者と連携しながら対応を検討し必要な支援につなげていきたい。

木のまちづくり推進事業と住宅新築支援

問 本市の住宅新築着工数の落ち込みが激しい。秋田杉を使用した新築、リフォーム等を支援する「秋田スギの温もり」木のまちづくり推進事業で、新築の場合に補助金額を増額する考えはあるか。

答 「秋田スギの温もり」木のまちづくり推進事業は、秋田杉製品の需要拡大等を目的としており、補助利用の新築件数は減少しているものの、構造材等は補助対象としていないため、補助金増額が住宅新築の促進につながるか判断が難しく、現時点では考えていない。今後も施工例や利用者の声を紹介するなど、秋田杉使用のPRに努めていきたい。

その他の質問事項

- 白神ねぎの台湾輸出
- 次期総合計画での社会減縮小の数値目標
- 新築資金借入れ時の利子補給制度の創設

工藤 晃

協創のしろ

市文化財を鍋谷市政にどう生かすか

問 文化財は能代と人をつなぐ縄のようなものであり、その活用は能代を愛するための燃料を供給し続ける取組であると考えるが、それを市政にどう生かしていくか。

答 文化財は保存だけでなく、観光や地域振興、教育などで活用し、市民が親しむ機会を充実させることで次世代への継承につながるものと考えている。今後は郷土愛やシビックプライドの醸成、関係人口の創出を目指し、企画展や講演会、体験活動などを通じて積極的な活用を図っていく。

二ツ井中央公園「にっこにっこ広場」

問 フェス会場として活用した広場に、全国から寄附金やメッセージが寄せられた。市民と来訪者の共感によって育つ地域資源へと成長する可能性を踏まえ、今後の活用や情報発信をすべきでは。

答 広場はフェスの開催を通じ、広大な芝生空間と良好なアクセス性を備えた、発展の可能性を秘めた地域資源であると再認識している。今後はこれまでの利用に加え、広場の持つ開放的なポテンシャルを最大限に生かし、多様なイベントや集客事業の会場としてより多くの方に活用いただけるよう、市ホームページやSNS等による情報発信に努めていく。

その他の質問事項

- 文化財等企画展開催事業
- 能代市職員の採用及び育成

小野 立

市民ネットワーク
(大河の会・能代民政会・市民の風)

鍋谷市政はこれまでの市政と何が違うか

問 市長は新市政の3本柱として、希望あふれる能代、安心・安全の能代、持続可能な能代を掲げたが、これらは齊藤市長時代からの既定方針だ。違っていない点も構わないが違つたとすれば何が違うか。

答 従来手法では解決が難しい課題があり、マーケティング手法を活用するとともに、人口減少対策を次期総合計画の最重要課題と位置づけ、攻めと守りの政策を両輪として、総合戦略との一体化に取り組むなど、若い世代の意見を積極的に取り入れながら、全世代が希望と幸福を感じられるよう、市民の皆様とともに新たな時代を切り開いていく。

国の予算を呼び込んだ中心市街地活性化

問 本市の中心市街地活性化が進まない要因は、国が用意した予算を活用して来なかったことにある。秋田市、大仙市は各々約70億円受け取ったが、能代はゼロだ。国の予算獲得を目指す気はないか。

答 中心市街地では、空き店舗活用や集客イベントなど民間主導の動きが活発化しており、この動きを加速させるため、第3期中心市街地活性化計画を策定した。まずはこの計画の掲載事業を着実に推進していくこととし、今後、総理大臣認定が必要な中心市街地活性化基本計画の対象となる事業が具体化した場合には、策定を検討したいと考えている。

その他の質問事項

- 役七タの伝統継承に向け本腰の支援を
- グラウンド・ゴルフ場のトイレ休憩場整備
- まちなかコサクルの恒常化とエリア拡充